2003年3月31日　第３号

兵庫県立看護大学附置研究所推進センター
ニューズレター

巻頭特集

― 兵庫県立看護大学『まちの保健室』が開設される ―

兵庫県立看護大学「まちの保健室」では、看護大学の教員や大学院生が、看護大学としての専門性を活かし、総合的な相談だけではなく、専門分野における特定の相談に応じています。そして、地域社会への看護サービスの向上を図るとともに、「まちの保健室」に来所される住民の方々に対して研究的要素を取り入れながら関わることで、地域看護ケアを開発し、地域住民に還元することを目的としています。この相談は、平成14年６月から開始され、【高齢者もの忘れ看護相談】【血糖が気になる方への看護相談】【女性のための性やからだの看護相談】【こころの健康相談】【睡眠と住まい方の相談】【医療ケアが必要な子どもが通う養護学校看護師懇談会】の各相談事業を行っています。

高齢者もの忘れ看護相談

「高齢者もの忘れ看護相談」は、痴呆症高齢者の介護者だけではなく、痴呆症高齢者自身をも対象とし、平成14年６月21日からスタートしました。

◆「高齢者もの忘れ看護相談」を受けるには

まず、相談を依頼される方に電話で予約を取っていただきます。その後、ご希望に沿って日程を調整し、来所若しくは訪問により、無料で相談をお受けしています。

開催日程：毎月第２火曜日、
　　及び第３金曜日の午後１時半～午後３時半
場　　所：兵庫県立看護大学　附置研究所推進センター内
予約電話受付時間：毎週月曜日～金曜日
　　午前９時～午後５時
予約電話番号：078－925－9446

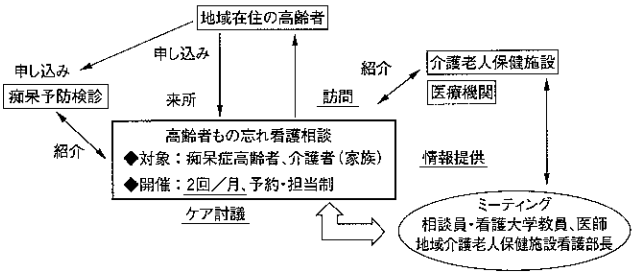
１．初年度の活動

「高齢者もの忘れ看護相談」は、痴呆予防検診後の追跡調査で明らかとなった、「痴呆症について気兼ねなく相談できる窓口が欲しい」という検診者及びその介護家族のニーズに留意しています。そのため、相談は予約制とし、相談員も担当制にするなど、一貫した相談活動を実施しています。しかし、相談活動を始めると、大学までのアクセスの問題、地域の介護・福祉資源の最新情報を把握する必要性、開催曜日の限定など、課せられた問題は少なくありませんでした。

そこで、昨年は運営会議を幾度も行いながら、相談形式に「訪問」を加えたり、開催曜日を「火曜日・金曜日（２回／月）」に増やしたり、地域医療機関・介護

老人保健施設と共に、看護相談を地域生活につなげる「ケア討議」の場を設けるなど、この看護相談のプロトコルの充実や、その体制づくりに努めてきました（図１参照）。

図１　「高齢者もの忘れ看護相談」運営体制



２．新たな指針と今後の活動予定

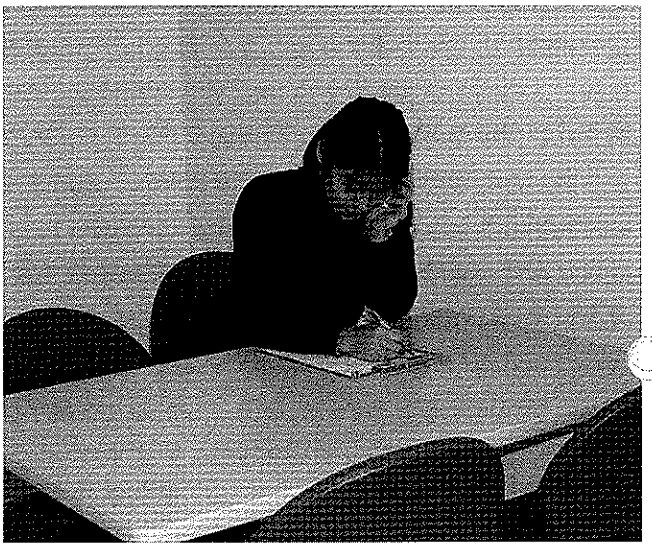
ある介護者から「介護サービスの疑問を、利用の支援センターには聞きづらい。でも、大学なら何でも聞ける。」という声をいただきました。また、地域の在宅介護支援センターより、保健・福祉・事務職員を対象とした「痴呆の研修会」の講師依頼も入り始めました。

痴呆症高齢者を支援するには、痴呆症ケアに携わっている専門職自身をエンパワーメントする必要もあります。そこで、本年は、新たに「地域における痴呆症ケア啓蒙活動」を加え、将来的には「高齢者もの忘れ看護相談」の機能の一つとして「教育機能」も構築したいと考えています。

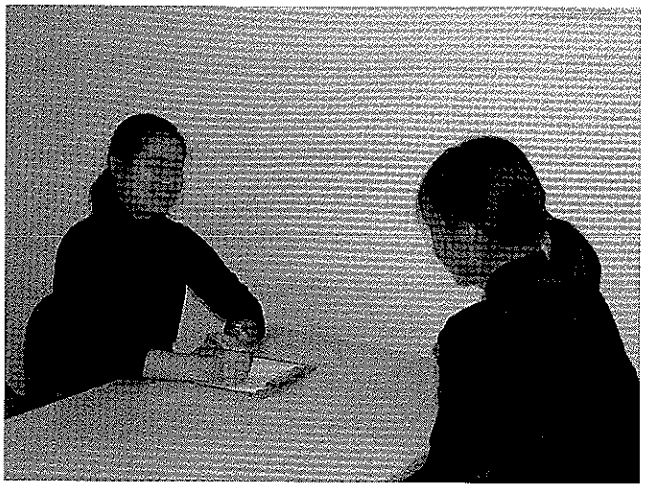
女性のための性やからだの看護相談室

「女性のための性やからだの看護相談室」とは、母性看護学担当の教員と大学院生が開設している女性を対象とした相談の場です。病院に行くほどではないけれど、なんとなく気になる症状がある、ずっと気になっているけれど誰に相談したら良いのか分からない、相談したいけれど恥ずかしいなど、女性が持つ健康上の不安や悩みについて共に考え、その方たちが自分のからだや思いを見なおし、より健康に近づいていくことを支援することを目的としています。

この相談室は毎月、第２木曜日の午前９時から12時まで、そして第４木曜日の午後４時から８時まで、付置研推進センターで電話での相談と直接来所しての相談という２通りの方法で行っています（相談者に利用してもらいやすいように、平成15年４月から、第２木曜日の相談時間が正午～午後４時に変更となります）。



今までに電話相談は３名、面談での相談は２名の方が利用されています。その内容はからだに感じる不快症状へのとまどい、子どもに関する悩み、夫との性生活に関する悩みなど多岐にわたっています。利用された女性の数は少ないのですが、相談された女性達からは、「このような場を待っていた。話をきいてもらえるだけでもほっとする。」との言葉が聞かれています。このような言葉からも、自分の健康に関して何らかの悩みや疑問を持ちながら、どのように対処すると良いか分からない女性は数多く存在すると思われます。



この相談室は研究の一貫としても行っています。女性の健康に関する研究を見てみると、特別な疾患を有さず病院に入院しているわけではなく、地域に居住する健康な女性達の健康の実態については、まだまだ明らかにされていません。一人一人の相談に乗りながら、地域の女性達が自分達の健康をどのように管理しているのか、どのような体験をしているのかを知り、そのことによって看護がどのように貢献できるのかを考える手がかりを得ていきたいと考えています。

女性のための性やからだの看護相談室

相談日時：毎月第２木曜日　正午～午後４時
　　第４木曜日　午後４時～８時
　　（H15.4月～H16.3月）

ＴＥＬ：090－4564－3817

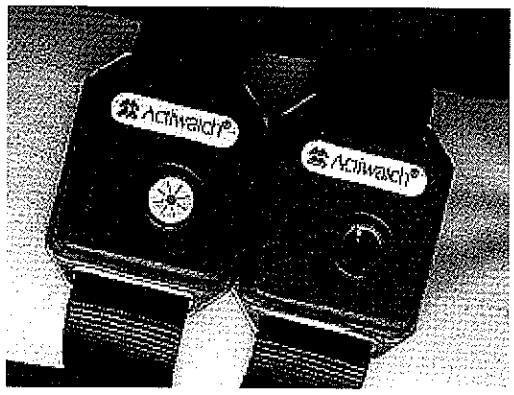
場　　所：兵庫県立看護大学
　　附置研究所推進センター内

睡眠と住まい方の相談

社会の夜型への移行や高齢に伴う生理的変化などにより、睡眠障害を訴える人は増加しています。また、睡眠障害まではいかなくても、寝つきが悪い、目覚めがスッキリしない、中途覚醒やいびきがひどいといった自覚症状がある場合、質的にも量的にも十分な睡眠がとれているのだろうかと不安に思っていらっしゃる方が多いようです。

「まちの保健室」の睡眠相談では、このような訴えや不安を抱えていらっしゃる一般住民の方々を対象に、睡眠に関する相談にのっています。また、質問紙にお答え頂くと同時に、アクティウォッチと言う腕時計大の器具を１週間装着していただき、ご自身の睡眠状態を客観的にご覧いただいています。

アクティウォッチ（写真）は、体動のレベルとその頻度に対応した信号を発生するアクセロメーターを備え、アクティビティ・カウントとして記録するものです。脳波計と異なり超小型・軽量（サイズ：28×27×10mm　重さ：17ｇ）で、対象者に負荷感を与えずに睡眠・覚醒リズムの解析をすることができます。ＡＷ－Ｌ型は、アクティビティと同時に照度を分析することができます。



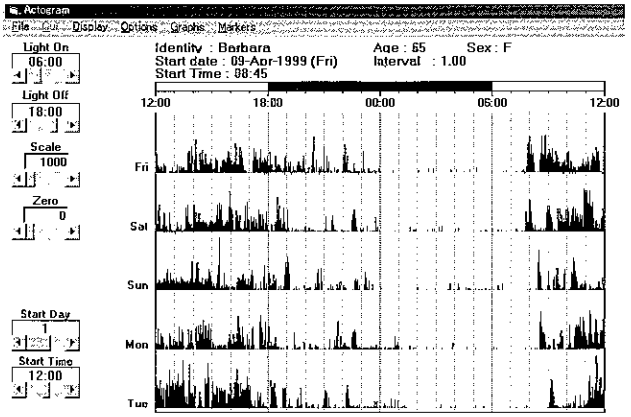
右がＡＷ－Ｌ型

平成14年度は、兵庫オープンカレッジ受講者の協力を得て、26名の方々の相談に対応しました。また、アクティウォッチを装着していただき、データの収集を行うこともできました。当初は大部分が65歳以上の高齢の方であろうと予測しておりましたが、内訳は、65歳以上が９名（男性３名、女性６名）、65歳未満が17名（男性３名、女性14名）で、最年少は30歳でした。

今回来談なさった方の多くは、退職後も趣味やボランティアをしたりパートで仕事をしたりするなど、活動的に毎日を過ごしていらっしゃいました。そのため、睡眠効率も同年代の方々に比べると高く、比較的質の良い睡眠をとっていると推察されました。しかし、中には就寝時刻が遅く夜型の生活をしている方や、不眠気味の方も見られました。

結果は分析して個別に整理し、今後の生活や睡眠時の留意点と併せて、直接または郵送によりフィードバックしています。次頁の図はサンプル（５日間の睡眠・覚醒リズムを表すアクトグラム）ですが、睡眠状態を客観的に見ることができるため、来談なさった皆様は興味を抱くと共に、ご自身の生活リズムを再検討する

資料にしてくださっているようです。



アクトグラム

平成14年度は睡眠相談だけでしたが、今後は「まちの保健室」の専門相談として、在宅療養をなさっている高齢者やそのご家族の住まいをどのようにレイアウトすれば使いやすくなるか、あるいは住宅改修をしたいがどこに相談したらいいかわからない、といったことも含めた『睡眠と住まい方の相談』として続けていきたいと思っています。

相談日時は毎月第一金曜日、午後1時半から3時までです。今はまだ“口コミ”で来談されている段階ですが、将来は地域住民のよりよい生活を支援できるよう、サポートシステムを作っていくことができればと考えています。

連絡先：

兵庫県立看護大学実践基礎看護学Ⅰ共同研究室
078－925－9434
（担当者：宮島朝子、大島理恵子、堀田佐知子、若村智子、近田敬子）

こころの健康相談

精神看護学分野では専門相談として「こころの健康相談」を開始しました。からだの不調や病気のことでストレスを感じている方、子育てや家族の介護のことで悩んでいる方、こどもが不登校や引きこもりがちで困っている方、あるいは職場や家族の人間関係で悩んでいる方など、日頃の生活の中でストレスにどう対処したらよいかわからなかったり、心身の不調に悩んでいる方々に対して、こころのケアを専門とする看護師が個別に相談に応じます。継続的な心理相談の場として、またストレスマネジメントの方法を学ぶ機会として、あるいは専門機関や地域資源の情報を得る場として、気軽に利用していただきたいと思います。

・「こころの健康相談」の開催日：
毎月第3月曜日　午後2時～4時
（個別に50分ずつ対応します）
・相談を受ける方は事前に電話予約をしてください。
電話の受付時間：毎週水曜日　午後1時～4時
予約の電話番号：078－925－9610

各分野ごとの活動報告

災害看護

『アジア災害看護フォーラム』を企画・開催

平成14年8月29・30日、兵庫県立淡路夢舞台国際会議場メインホールを会場に『アジア災害看護フォーラム』を開催しました。「アジアにおける災害看護ネットワークを考える―災害看護教育に焦点をあてて―」をテーマにしたこの会は、科研費補助金による「災害時における看護支援ネットワークの構築に関する研究」の一環として計画したものです。日本災害看護学会の協賛と日本看護協会の後援を得て国内外の災害看護に関心を寄せる看護職約100名の参加がありました。

アジアからはMs. Astuti Sri Wardhani氏（インドネシア）、Dr. Ogcheol Lee氏（韓国）、Ms. Altanbagana Surenkhorloo氏（モンゴル）、Dr. krongdai Unhasuta氏（タイ）、Dr. Zxy－Yann Lu氏（台湾）、Ms. Xiaoyu Wu氏（中国）の6カ国から6人の看護教育・研究者、看護政策に携わっている看護職をシンポジストとして招聘することが出来ました。また来賓

として国際看護師協会事務局長のMs. Judith A Oulton氏、日本看護協会専務理事の岡谷恵子氏がご出席くださいました。

１日目は、研究班代表者の南裕子氏の「日本における災害看護の現状と課題」と題した開会講演から始まりました。この中で氏は日本の災害の特徴、阪神・淡路大震災における看護職の活動、大震災以後にわが国の災害看護研究が本格的に始まったこと、日本災害看護学会の設立経緯、現在の災害看護研究について紹介し、災害時のネットワークの重要性について述べました。その後のシンポジウム「アジア諸国の災害の現状と課題および災害看護の現状」では、Ms. Judith A Oulton氏からはＩＣＮの国際的な取組みについて紹介が、アジア各国のシンポジストからは自国の災害の実状と看護活動について発表がありました。各国における災害に対する取組みには、共通点とともに独自の活動があり興味深いものでした。

２日目、研究班の山本あい子氏からは「災害看護教育モデルの開発」について、国際看護交流協会の山崎達枝氏からは「国際緊急医療専門家開発事業」についての発表がありました。続いてわが国の看護教育機関や医療施設に勤務する参加者から各々の活動状況が報告され、会場は活発な情報と意見交換の場となりました。多くの参加者から、今回のような災害看護の国際的な会議開催を今後も望む声がきかれました。最後に、災害看護学の重要性をうたった宣言文「淡路夢舞台宣言」を作成し実り多い２日間に幕を閉じました。

アジア災害看護フォーラム　海外からの招聘者とともに

淡路夢舞台宣言　―災害看護に関する宣言―

我々、2002年８月29日と30日の２日間に開催されたアジア災害看護フォーラム「アジアにおける災害看護ネットワークを考える－災害看護教育に焦点を当てて－」（科研「災害時における看護支援ネットワークの構築に関する研究」研究班主催）の参加者は、災害看護学の構築とネットワークの構築の重要性を宣言し、アジアで発生する災害に対して備えることをここに誓う。

我々は、看護の基礎教育カリキュラムの中に「災害看護」を少なくとも一つの科目として位置づけるべきであると考える。

我々は、「災害看護」は、看護のあらゆる領域で対応が必要となるものであり、求められる専門能力を統合する科目であると考えるからである。

我々は、基礎教育の中で教授される災害看護には次の項目が含まれることが望ましいと考える：

・会議の中で討議された災害概論に含まれる項目
・災害時のケア提供者の精神的反応並びにストレス
・生活の支援への看護援助の役割
・公衆衛生的側面
・長期的影響
・平常時と異なる看護システム･看護過程の展開の仕方
・活動に取り組む力
・災害看護場面における倫理的側面

我々は、基礎教育に加えて、継続教育の重要性を強調する。

我々は、政府から支援された団体やプロジェクトと同じような組織、またＪＮＡ／ＪＩＣＡを含めたＮＧＯ／ＮＰＯ団体が、継続教育の取り組みに貢献することを求めるものである。

我々は、アジアの中で災害看護教育の構築のためにネットワークとして連携していくことを誓う。

2002年８月30日

アジア災害看護フォーラム

（文部科研「災害時における看護支援ネットワークの構築に関する研究」研究班主催）

国際地域看護

インドネシアより
看護研修員を迎えて

第２回「プライマリー・ヘルスケア（ＰＨＣ）と看護」国際研修の実施

2002年８月22日～９月24日の期間「プライマリー・ヘルスケア（ＰＨＣ）と看護」国際研修のため、インドネシアの行政と教育関係の看護職４名が、本学附置研究所推進センター において研修を受講いたしました。この研修は、国際協力事業団（ＪＩＣＡ）兵庫国際センターからの委託事業として実施しており、昨年９月に引き続き本年で２度目の実施となります。途上国の看護職の資質向上に寄与することを目的として実施しており、具体的には、１週目にＰＨＣと国際的な動向の理解、日本の看護教育と継続教育についての講義と視察。２週目には、日本のＰＨＣ活動について戦後の保健施策・医療システムの変遷や、看護職が果たしてきた役割の理解のための講義と演習。３週目には、淡路島をフィールドとした日本の地域保健医療と看護活動の現状を学ぶための施設実習。そして最後の４週目には、インドネシアのＰＨＣにおける看護職の役割や活動などを見直し、問題点を明らかにしたうえで、帰国後に実施するアクションプランを日本で学んだ成果を基に作成し発表するというものでした。

この国際研修では本学をはじめ、県庁県民生活部、ＷＨＯ神戸センター、日本看護協会神戸研修センター、兵庫県立淡路病院、津名健康福祉事務所、五色町健康福祉総合センター、毛利助産所などの兵庫県内関係施設から、昨年度に引き続きご支援とご協力をいただくことにより、充実した講義・視察となりました。そして、大学院生との議論や合同講義、訪問施設におけるインドネシアの看護の実態報告、また夏期休暇中のため学生との交流が少ない中で、国際保健に関心の高いサークルの学生とのフリー・ディスカッションの場などを設け、文化や言葉、看護について語り合うことができました。

国際研修修了式　2002年９月24日

アクションプランの発表会

今年度の研修は、昨年の研修員の評価や意見を取り入れ、期間を１週間延長し、ディスカッションやアクションプラン作成の時間を増やしました。

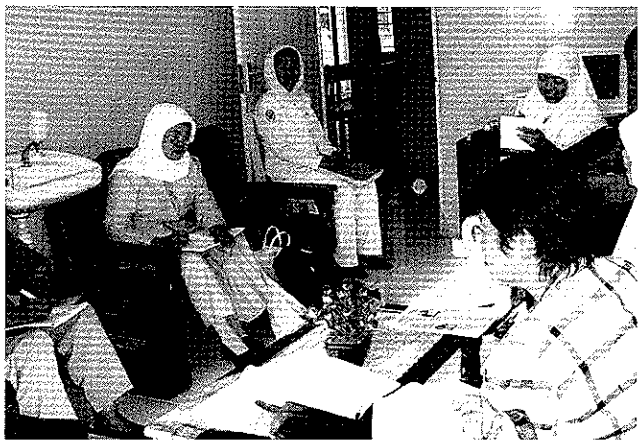
その結果、行政の看護管理者と教員の４人は現場の問題、教育の問題について相互に意見交換をして帰国後に４人がチームで実施するアクションプランを完成し、実施することを約束して、帰国の途につきました。

国際研修のフォローアップ調査
ーインドネシア・南スラヴェシー州へー

日本での国際研修が終了した半年後の２月に研修の評価と研修員のフォローアップを目的に、ＪＩＣＡの委託で2003年２月５日～２月16日の期間、２名がインドネシアの南スラヴェシー州へ訪問しました。日本で作成したアクションプランの実践状況については、研修員に共に２回会合を持って話し合い、確認しました。

研修員達は、アクションプランに基づき昨年の12月にタカラール県の全保健所の看護職員40名を対象に６

日間の健康教育に関する研修を実施していました。実際実施しているタカラール県の衛生部と４保健部と村や保健所を訪問することで研修員の実施した研修後の状況についても調査することができたのです。



インドネシア現地調査

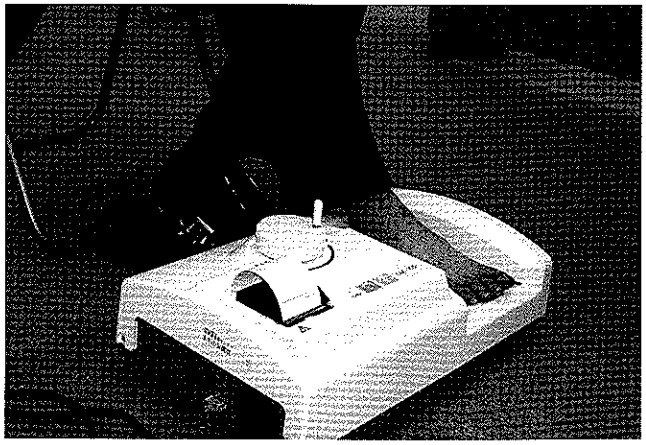
日本での国際研修を終了した研修員は、２年間で合計６名となりました。研修員達の今後の計画としては、今年の８月に南スラヴェシー州全県を対象にタカラール県での健康教育研修の報告と他県への波及を目的としたワークショップを実施し、来年の２月には東インドネシアを対象としたワークショップを開催したいと語るのです。研修員全員で力を合わせて一緒に乗り越え、さらに新たな活動に取り組もうとする意欲と連帯感が、インドネシアで６名全員が集合した会議で伝わってきました。職場や役職を越えて、日本での研修の仲間という意識が芽生えたことは、国際研修への参加条件を、看護教員と行政看護職の双方から選んだことが、今後、地域での活動を進めていく上で大きな財産になったのではないかと思うのです。

２年間の本学での国際研修の実施と現地調査の実績をふまえて、来年度の「ＰＨＣと看護」国際研修実施についてもインドネシアから４名の受入れ予定で現在進んでいます。この貴重な２年間の経験、そして研修員と協力機関からのご意見を生かして、2003年度もより一層充実した研修にしていきたいと考えています。

ボランティア看護師による健康相談

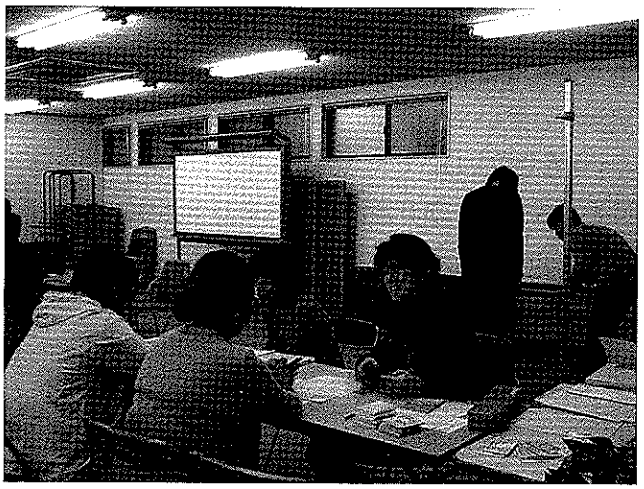
兵庫県看護協会による「まちの保健室」は、平成13年から被災地の復興住宅を中心に、県からの補助と協力を得て始まった事業であり、現在８市20カ所で行われています。この附置研究所推進センターでも、平成14年７月から「まちの保健室」が開設され、毎月第１金曜日の13時30分から15時まで活動を行っています。兵庫県立成人病センターと明石市立市民病院の看護師さんが、ボランティアで健康相談を行っています。また、看護大学で活動を行うという特徴を活かして、来所される住民の方に了解を得たうえで、研究的要素を取り入れ『骨量測定』を附置研究所推進センターの教員が行っています。

『骨量測定』は、ＣＭ-100（エルクコーポレーション社）を使用し、超音波測定法（ＱＵＳ：Quantitaive ultrasound）によって、踵の骨量を測定しています。ＣＭ-100は、写真にありますようにコンパクトな機械であり設置場所を選ばず、超音波式のため放射線被曝の心配はありません。また、測定時間が10秒と短いため、住民の方の負担も少ないと考えられます。骨量測定の前後には、食習慣や運動習慣、健康に対する考え方に関するアンケートを記載していただいています。その内容を基に、骨量測定結果と併せて住民の方に対して、ボランティア看護師さんと協力をして、生活習慣に関する指導を行っています。これまでに、約117名の方の測定及び指導を行いました。



平成14年10月26日(土)・27日(日)に、大学祭が行われました。この時、「まちの保健室」のＰＲを行うため

に、附置研究所推進センター内で２日間、「まちの保健室」を開催し、健康相談や骨量測定を行いました。26日は29名、27日は51名の方が来所され、大盛況でありました（写真）。附置研究所推進センターは、場所的にわかりにくいところにあるため、大学祭以前は、来所者数が平均３名でありましたが、大学祭後は、平均８名が来所されるようになりました。また、平成15年１月からは、「まちの子育てひろば」すなわち子育て支援も「まちの保健室」活動の一環として行っています。今後は、親子３代が気軽に訪れる場となれるように、広報活動にも力を入れつつ、ボランティア看護師さん、看護協会担当者、センター教員が協力して活動を行っていきます。



連絡先

受付時間　月～金　　９時～16時

電話番号　078－341－0255（まちの保健室直通）

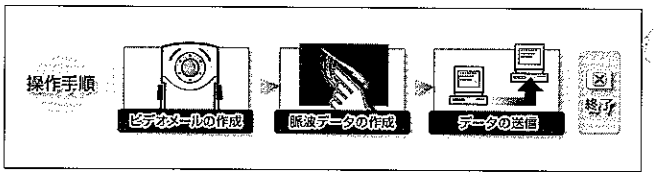
　　078－341－0190（兵庫県看護協会）

e－mail　takayama@hna.or.jp

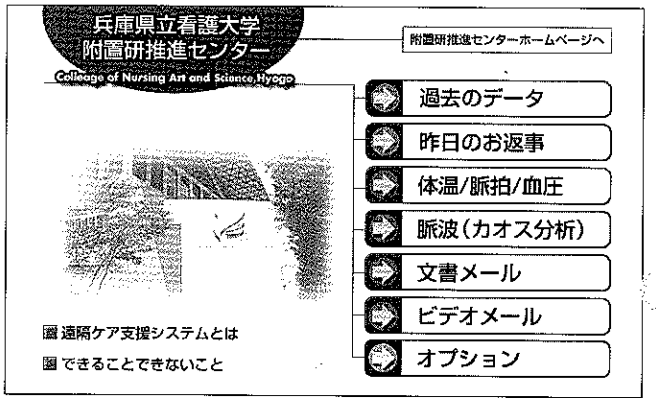
遠隔看護

平成13年12月20日に完成した遠隔看護システムを、さらにユーザビリティに配慮し、改良を重ねた「新遠隔看護システム」が、平成14年11月に完成しました。現在、附置研究所推進センターに設置しているサーバーを拠点として、研究協力者の方と研究協力病院の看護師さんに、システムを組み込んだノートパソコンを貸し出し、無線通信を利用して、「新遠隔看護システム」を稼働させています。

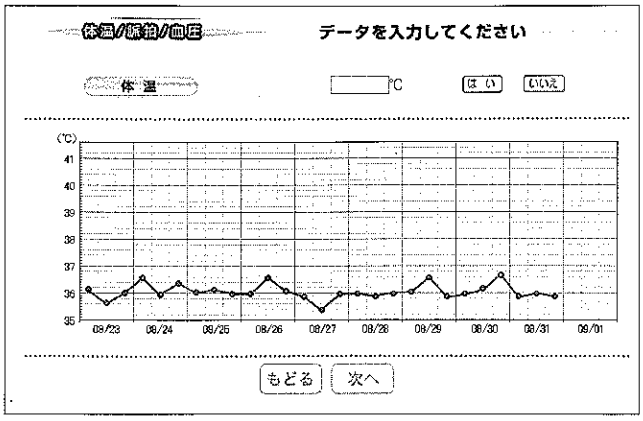
以下に「新遠隔看護システム」の画面構成を説明します。

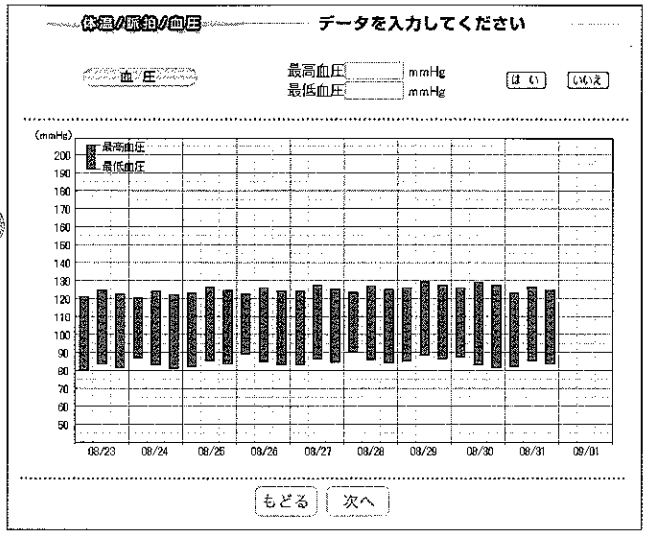


操作手順に従い、音声や表情による健康状態を把握するための「ビデオメール」や、総合的な健康状態を把握するための「脈波データ」を作成し、「データ送信」から、トップ画面を立ち上げます。

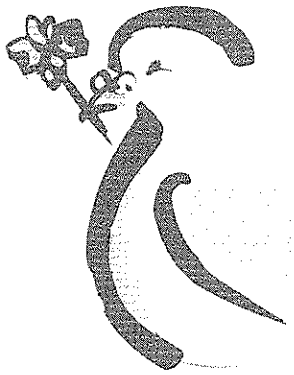


「過去のデータ」は、自分の確認したい日のデータを過去に遡って見るところです。「昨日のお返事」は、担当看護師からのビデオメールや文書メールによるコメントや、附置研究所推進センターからの脈波データの分析結果を見るところです。「体温／脈拍／血圧」は、自分で測定して数値を入力します。入力すると自動的にグラフ化されるようになっています。「文書メール」は、体調や気になる症状を記載したり、質問したりと自由に文書を書いてもらうところです。「脈波（カオス分析）」「ビデオメール」は、先程作成し、保存されたデータを送信するところです。





このようなシステムを用いて、毎日看護師やセンターと繋がることで、在宅で療養している方、病気を持ちながらお仕事をされている方、健康管理に気をつけていらっしゃる方などのケアや支援に役立てることを期待しています。



「地域ケア開発研究所（仮称）」の整備が決定

本学ではこれまで、外部資金による「地域ケア開発研究所（仮称）」の整備を実現するため、「地域ケア開発研究所（仮称）」設立推進委員会を設け、外部資金の確保に向け募金活動を続けてきましたが、一方で、現下の非常に厳しい経済状況を鑑み、県による研究所の建物の整備を要望してきました。その結果、この度研究所の建物の建設にかかる県予算が平成15・16年度に計上されることが決定され、いよいよ研究所の建設が実現することとなりました。

今後は、研究所の機器・備品整備に必要な経費について、外部資金の確保に努めることとなります。

○整備場所　明石市北王子町13－71
（兵庫県立看護大学キャンパス内）

○施設規模　延床面積　約2,000m²

○主な研究内容

・災害看護及び国際地域看護に関する研究・システム開発

・「看護相談」や「遠隔看護」等実践的ケア提供を通した実践方法の研究・システム開発

・看護専門職等に対する研究支援及び継続教育方法の研修・開発・実践

○スケジュール

・平成15年度　　実施設計、工事着手

・平成16年10月　　工事完成予定

被災地でのケア生かす
災害看護学、初の研究所

兵庫県立大 04年に新設

阪神大震災の際に病院や避難所、仮設住宅で住民の健康相談にのった経験や知識を「災害看護学」として確立し、今後の大災害時に役立てようと、兵庫県立看護大学（同県明石市）など3県立大学が04年春に統合してできる兵庫県立大学に、「地域ケア開発研究所（仮称）」が同年10月新設される。災害看護を専門に扱う研究所は全国で初めて。被災住民が受ける長期的な健康への影響についても調査する。

阪神大震災では被災地に全国から看護師約千人がボランティアとして駆けつけた。看護大はその取りまとめを担当。学内に「県看護ボランティア調整本部」を設け、要請があった病院や避難所、老人ホームなど計57カ所に延べ3千回以上、看護師を派遣した。現在も保健師と協力し、復興住宅を回って住民の健康状態を聞き取っている。

新設される研究所では、救急救命措置に傾きがちだった災害時の看護教育を見直し、大災害時の対応も学ぶ新たな教育カリキュラムをつくる。

さらに、阪神大震災で被災した住民から健康状態を継続的に聞き取り、アルコール依存症に陥ったり、慢性疾患を悪化させたりするケースを追跡。震災直後にどんなケアが必要だったかを検証する。

一方、看護大で実施してきた、北海道・有珠山噴火（00年）や東海豪雨（同）、明石市の花火大会歩道橋事故（01年）などで看護師がどう取り組んだかの調査結果や、災害看護をテーマにした国内外の文献をデータベース化して公開する。

災害看護学は歴史が浅いため、研究の核となる施設をめざす。

平成15年2月15日（土）　朝日新聞より

高齢者ケア 地域の手で

県立看護大に研究所

04年秋の完成予定

災害時支援もテーマに

自治体に成果還元

兵庫県は、高齢化社会を地域で支える仕組みを研究する「地域ケア開発研究所」（仮称）を県立看護大学（明石市）に建設する。地域ケアを専門に扱う研究機関は全国初という。

阪神・淡路大震災の経験を生かし、災害時の看護のあり方を研究、情報発信する国際拠点も目指す。2004年秋の完成を予定している。

現在は病院や施設での療養が中心で、地域が支えながら在宅で暮らせる仕組みの研究は課題となっている。

研究の主な対象は高齢者、ターミナル（終末期）ケア、糖尿病や高血圧といった生活習慣病、子育て支援など。

医療的な治療を受けた後の、精神的な支えを含めた看護のあり方をそれぞれ研究。成果を自治体やボランティアに還元し、健康的な暮らしができる地域社会づくりに役立てる。

災害看護の研究では、阪神・淡路大震災での被災者への心のケアや、三宅島の噴火、鳥取西部地震などでの調査経験を生かし、災害が起きたと同時に機能する看護体制のモデルを構築する。

また、同大は昨年八月、中国や韓国、タイなど七カ国に呼びかけてアジア災害看護フォーラムを開催。各国が災害看護学の重要性を強く求めたため、研究成果を世界に情報発信する。

鉄筋コンクリート三階建て約二千平方㍍。総事業費は約七億五千七百万円。同大は、県立三大学が統合し〇四年春に開学する兵庫県立大学の看護学部に改編される。

平成15年2月14日（金）　神戸新聞より

平成14年度センターカレンダー

まちの保健室・カレンダー

4／3　明石市・看護ボランティア参加
4／10　明石市・第１回運営会議出席
4／12　第１回「血糖が気になる方への看護相談」開催
4／20　第２回「血糖が気になる方への看護相談」開催
4／26　附置研・拡充運営会議出席
5／8　明石市・第２回運営会議出席
5／25　明石市・看護ボランティア参加
6／12　明石市・第３回運営会議出席
6／15　ボランティア看護師第１回研修会開催
ボランティア看護師全体交流会出席
6／19　明石市・看護ボランティア参加
6／21　第１回「高齢者もの忘れ看護相談」開催
6／24　第３回「血糖が気になる方への看護相談」開催
6／28　第４回「血糖が気になる方への看護相談」開催
7／5　附置研・第１回「まちの保健室」参加
7／10　明石市・看護ボランティア参加
7／19　第２回「高齢者もの忘れ看護相談」開催
7／22　第５回「血糖が気になる方への看護相談」開催
7／26　第６回「血糖が気になる方への看護相談」開催
7／29　川西市・第１回運営会議出席
8／2　附置研・第２回「まちの保健室」参加
8／14　明石市・看護ボランティア参加
8／24　「研修プログラムの開発」に関する会議開催
8／26　第７回「血糖が気になる方への看護相談」開催
9／6　附置研・第３回「まちの保健室」参加
附置研・第１回運営会議出席
9／11　明石市・看護ボランティア参加
明石市・第４回運営会議出席
9／12　第１回「女性のための性やからだの看護相談室」開催
9／20　第３回「高齢者もの忘れ看護相談」開催
第８回「血糖が気になる方への看護相談」開催
9／21　ボランティア看護師第２回研修会開催
神戸市・第１回運営会議出席
9／26　第２回「女性のための性やからだの看護相談室」開催
9／30　第９回「血糖が気になる方への看護相談」開催
10／4　附置研・第４回「まちの保健室」参加
10／7　第１回「睡眠と住まい方の相談」開催
10／9　明石市・看護ボランティア参加
10／10　第３回「女性のための性やからだの看護相談室」開催
10／12　ボランティア看護師第３回研修会開催
10／18　第４回「高齢者もの忘れ看護相談」開催
10／21　第３３回日本看護学会地域看護にて「まちの保健室活動に対する満足度高揚要因に関する探求」発表
10／25　第１０回「血糖が気になる方への看護相談」開催
10／24　第４回「女性のための性やからだの看護相談室」開催
10／26　大学祭にて、附置研・第５回「まちの保健室」及び第２回「睡眠と住まい方の相談」、第５回「女性のための性やからだの看護相談室」開催
10／27　大学祭にて、附置研・第６回「まちの保健室」と第３回「睡眠と住まい方の相談」開催
11／1　附置研・第７回「まちの保健室」参加
11／5　第４回「睡眠と住まい方の相談」開催
11／6　第５回「高齢者もの忘れ看護相談」開催
11／8　第５回「睡眠と住まい方の相談」開催
11／13　明石市・看護ボランティア参加
11／14　第６回「女性のための性やからだの看護相談室」開催
明石市・住民のニーズ調査のためアンケート配布
11／15　第１１回「血糖が気になる方への看護相談」開催
11／26　川西市・第２回運営会議出席
11／28　第７回「女性のための性やからだの看護相談室」開催
11／30　ボランティア看護師中間報告会参加
12／6　附置研・第８回「まちの保健室」参加
12／7　明石市・アンケート回収終了

12／11　明石市・看護ボランティア参加
12／12　第６回「睡眠と住まい方の相談」開催
　　第８回「女性のための性やからだの看護相談室」開催
12／20　神戸市西部地区・骨量測定実施
12／26　第９回「女性のための性やからだの看護相談室」開催
１／８　明石市・看護ボランティア参加
１／９　第10回「女性のための性やからだの看護相談室」開催
　　附置研・第９回「まちの保健室」参加
１／15　明石市・アンケート集計結果を住民に配布
１／22　第７回「睡眠と住まい方の相談」開催
１／23　第１１回「女性のための性やからだの看護相談室」開催
２／７　附置研・第１０回「まちの保健室」参加
２／12　明石市・看護ボランティア参加
２／13　第１２回「女性のための性やからだの看護相談室」開催
２／18　川西市・第３回運営会議出席
２／22　ボランティア看護師第４回研修会開催
２／27　第１３回「女性のための性やからだの看護相談室」開催
３／７　附置研・第１１回「まちの保健室」参加
　　附置研・第３回運営会議出席
３／12　明石市・看護ボランティア参加
　　明石市・第５回運営会議出席
３／13　第１４回「女性のための性やからだの看護相談室」開催
３／17　第１回「こころの健康相談」開催
３／27　第１５回「女性のための性やからだの看護相談室」開催

災害看護・カレンダー

４／２　教育班会議
４／23　学内研究分担者会議
５／13　学内研究分担者会議
５／18　教育班会議
５／26　ネットワーク班会議
５／29　「地方公共団体の危機管理のあり方シンポジウム」出席
６／７　学内外研究分担者会議
７／21　ネットワーク班会議
８／29～8/30　「アジア災害看護フォーラム」開催
９／11　教育班会議
９／28　日本災害看護学会第４回年次大会シンポジウムにて「日本災害看護学会ネットワーク活動」を報告
　　日本災害看護学会第４回年次大会にて「沖縄県渡名喜島における台風161号被害と住民の健康への影響」を発表
10／５　文献検討班会議
10／21　学内研究分担者会議
10／31　教育班主催情報交換会
11／16　ネットワーク班会議
１／16　文献検討班会議
１／24～1/25　ネットワーク活動・有珠山噴火被害後長期フォロー調査
１／25　文献検討班会議
１／27　ネットワーク活動・東海集中豪雨後長期フォロー調査
２／２　ネットワーク班会議＆グループワーク
２／６　防災センター見学
２／７　「防災シンポジウム－南海地震への備え－」に出席
２／14　ネットワーク活動・明石市歩道橋事故後長期フォロー調査
２／17　教育班会議

国際地域看護・カレンダー

4／12　JICA兵庫国際センター開所式出席

4／24　JICA兵庫国際センターにて、平成１４年度の国際研修打ち合わせ会議

7／24　JICA兵庫国際センターにて、「PHCと看護」研修打ち合わせ

8／1～1/3　第１７回日本国際保健医療学会(神戸)にて、「国際研修実施後の現地調査とフォローアップの重要性」について発表

8／22～9/24　「ＰＨＣと看護」研修受け入れ：インドネシアから看護職４名

11／7　JICA兵庫国際センターにて、フォローアップ調査の打ち合わせ

12／6～12/27　第２２回日本看護科学学会学術集会（東京）にて、「開発途上国への国際研修実施の手法についての一考察」について発表

1／4～1/20　フィジーへ調査：「フィジーにおける地域看護実習のモデル開発」〔平成１４年度兵庫県立看護大学特別調整研究助成金により実施〕

1／30　JICA兵庫国際センターにて、インドネシア短期専門家派遣について打ち合わせ

2／6～2/16　インドネシアへJICA短期専門家派遣調査：「ＰＨＣと看護」フォローアップ調査

遠隔看護・カレンダー

6／20　**3月から運用していた「遠隔看護システム」を一旦終了し新バージョンに向けての作業開始**

8／9　第２８回日本看護研究学会にて「遠隔看護システムの実際とその評価」発表

9／14　兵庫県立看護大学第９回国際セミナーにて「情報通信技術を用いた看護の展開」報告

10／20　日本看護技術学会第１回学術集会にて「ＩＴ時代の看護技術―テレナーシングの実際―」コアセッション開催

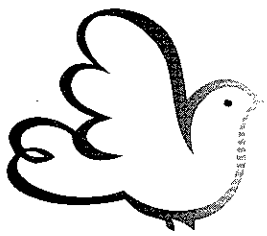
10／30　第７回日本看護サミット２００２にて「看護の未来とＩＴ革命」報告

11／6　「遠隔看護システム」新バージョン完成・試験運用開始

12／6　第２２回日本看護科学学会にて「糖尿病患者に対する遠隔看護の実際とその評価」発表

12／20　研究協力者自宅及び研究協力病院に「遠隔看護システム」新バージョンを組み込んだノートパソコンを貸し出し、無線通信による運用開始

2／24　長野県看護大学と産学交流事業における遠隔看護システム導入についての話し合い



附置研究所推進センター研究報告集

論　文

地域ケア支援に向けた遠隔看護システムの開発 ……川口　孝泰・東　ますみ

遠隔看護システムを用いた看護の実際 ……東　ますみ・川口　孝泰
—その１　指尖容積脈波を用いたバイタル情報の活用とその有用性—

遠隔看護システムを用いた看護の実際 ……東　ますみ・川口　孝泰
—その２　糖尿病患者に対する在宅型看護支援に活用して—

情報通信技術（ＩＴ）による双方向性の ……山本あい子・川口　孝泰
コミュニケーションを活用した産褥期母子支援システムの開発　工藤　美子・足立　静
田村　康子・辻　久美子
津田万寿美・野澤美江子

地域における看護活動の必要性とその課題 ……吉田　明子・東　ますみ
—「まちの保健室」で活動しているボランティア看護師に対する調査から—　近田　敬子

まちの保健室を拠点とした「血糖が気になる方への看護相談」……秋山　直子・近藤　千明
魚里　明子・野並　葉子

高齢者看護が担う痴呆症相談活動の課題と方向性 ……平林　美保・江上　史子
—「高齢者もの忘れ看護相談」を通して—　梅垣　順子・松岡　千代
水谷　信子

沖縄渡名喜島における台風16号被害と住民の健康 ……津田万寿美・小笹　美子
松下　聖子・臼井　千津
林　洋子

報　告

兵庫県看護協会が取り組む「まちの保健室」事業における ……近田　敬子
後方支援の状況と大学に期待される役割

＜編集後記＞

ニューズレター第3号をお届けします。紙面についてのご意見、ご感想、記事のリクエスト等は下記までお寄せください。

兵庫県立看護大学附置研究所推進センター
673-8588 兵庫県明石市北王子町13番71号
ＴＥＬ：(078)925−9610
ＦＡＸ：(078)925−0872
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ：http://www.cnas-hyogo.ac.jp/fuchiken/